

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームハーモニー
（ユニット名）	1階
所在地 （県・市町村名）	静岡県浜松市西区大人見町3028-1
記入者名 （管理者）	伊藤さとみ、小澤亜須加
記入日	平成20 年1 月25 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	生活リハビリを中心とし、月1回の外食、昔からの行事などを取り入れて、家庭に近い環境を作っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	生活も家庭的に送ることができるよう、日常生活リズムを大切にし日々暮らしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の行事や祭りに参加したり、地域の方を家族交流会に招待し、交流を深めている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	現状維持していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人内にリハビリ公園があり、災害発生時に活動できるよう、汲み取りトイレや非常食、ストーブなど準備をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	入居者の生活を中心に、家族に安心して任せていただけるよう取り組んでいる。外部評価の助言にて改善している。	○	入居状況報告書を作成し、毎月家族に送っている。ケアプランを3ヶ月に1回見直しをしている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回は開催している。自治会長、婦人会長、民生委員、入居者家族、市役所職員から助言を受け、今後活動に生かしている。	○	入居状況や活動報告しホームの内容を理解いただき、助言や地域の行事、祭りなど参加できるよう協力していただいている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年、家族交流会に招待しホームの取り組みをまずは見ていただいた。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在も成年後見制度を利用している入居者がいる。研修は受けた事がある。	○	家族から依頼を受けて、審査に立ち会ったりして、活用できるよう支援した。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知賞研修に参加したり、話し合いの場を設け、職員一人で長時間対応はしないよう配慮している。	○	入浴時身体観察をしたり、ヒヤリハットの内容を把握し、虐待が見過ごされないよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时、面会時、入居時と説明し、契約時には理解されていることを確認し署名をお願いしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	様子の変化で職員側から声かけし、意見があったときは職員一人で解決するのではなく、カンファレンスしたり、家族に報告して安心して生活が送れるように支援している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月入居状況報告書を作成したり、2ヶ月に1回小遣い報告、月の予定表を作成し家族に渡している。異動、入社については一筆書きしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情の申し立てについて説明、よりよいケアをするためにも気になることは遠慮なく伝えて欲しいと説明している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、毎日の申し送り時など、職員の意見を聞き提案を検討している。	○	入居者重度化に伴い職員を1人増員した。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居、退去、行事などは人員を多く配置したり、体調不良者が出たときは、他フロアーより調整し助け合っている。フロアーをレベル別にし、入居をお願いしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	勤務体制など相談し、続けて勤務できるよう配慮している。異動時は一人ひとりきちんと挨拶し異動の場所を明確にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で新人研修、中堅研修、フォローアップ研修が行われ、参加している。個人的にはグループホーム内に教育マニュアルを作成しトレーニングしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に情報交換しているが、相互訪問はしていない。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者とともにお茶を飲んだり、おやつを食べる時間を作ったり、タバコを吸う時間も作っている。職員同士で、歓迎会や会食も行っている。悩みを相談できるよう法人内にスーパーバイザー組織はある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に担当している仕事や行事など、役割が達成できたときに『頑張ったね、よくできましたね』と成果を認めた声かけをしている。人事考課制度により、自己評価し自分に目標を持って働けるよう勤めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	目配り、気配りを強化し声かけを多くしたり、わからない事に対しては説明を繰り返したり標示をしたりして、混乱を防ぐよう支援している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設側からの説明で、まだ後からわからない事には随時連絡して欲しいと伝え、訪問の仕方、電話の取次ぎの仕方の説明している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当グループホームの方針、生活、対応等説明している。適応と思われない場合は他サービスの説明をし、法人内相談員に依頼している。	○	相談員、ケアマネジャーが適応と判断し、紹介により、本人家族が来所し面接をして、入居の見極めをしている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接時、入居者とともにお茶を飲んだり、食事をしたり、場になじめるよう職員が声かけ、配慮している。入居してからは、本人の意思を尊重し、無理強いしない事になっている。	○	左記の食事は時間帯によってタイミングが良いとできる事なので、面接する方全員に対応する事ができていない。お茶は飲んでいただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分がされて嬉しい対応とされたくない対応を常に念頭に置き介護している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望を一番に考慮し、家族の意向や本人の情報を得て穏やかな生活ができるよう、家族とともに考えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には、ホームに入れっぱなしにしない事の説明や、本人がここに捨てられたのではないかと不安にならないよう、面会、外出、外泊には協力していただいている。毎月入居状況報告書を送り、把握していただいている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊は基本的に自由にしている。帰りには、また面会に来ていただけるよう声かけをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	楽しく会話できる入居者同士は隣に座ったり、歩ける方が車椅子を押してくれたり、できる方食事の配膳、下膳もしてくれ、協力し合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自宅退去した方が現在も月1回診療所で薬を作ってもらい、グループホームで保管して入居者に会いに紀ながら取りにこられている。	○	継続できていれば、重度化したとき再入居の窓口となれば良いと考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中に、毎日の散歩、家事、習い事、外リハ等があるが、強制せず本人本位でやれる事、好きな事、参加できる事で考慮している。	○	習い事、ボランティア来所。生活リハビリなど、自由参加にしている。散歩は、皆好きでほとんどの方が参加している。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、バックグラウンドアセスメントを家族に渡し、今までの暮らしについて記載して頂き、経過を把握するように 努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活記録や健康チェック、毎日の申し送りにて把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、その内容を反映した方針でケアプランを作成している。アセスメントをチェックし、職員全体でカンファレンスを行い作成している。	○	家族には。面会はもちろんのこと外出、外泊についてもお願いしていきたいと思っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しは3ヶ月に1回行っている。その都度変化があったときはそのときの状況にあった新しいプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護カルテに一日の気づきを記載している。情報内容ではケアプランにも反映している。毎日の申し送りの中からもプランに反映させている。月に1回以上介護経過記載を義務付けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的に歯科衛生士の口腔ケアが受けられたり、里美容も月2回利用できる。施設内の診療所も受診できる。老健、老人病院への移動も可能である。行政手続きも代行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には運営推進会議時に助言していただいたり、消防ではホームでの防災訓練時の演習を見てもらい助言をしていただき協力してもらっている。定期的にボランティアの来所、幼稚園児の来訪もある。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家庭の事情や、ホームでの生活に限界が来たときは、他のサービス事業者の相談員やケアマネジャーと連絡を密にしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	法人内の支援センターを利用している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が望む主治医に受診できるようにしている。専門外では、紹介状を作成し受診できるよう支援している。法人内の診療所も受診できる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内の診療所に常勤医師がおり、主治医になっている入居者が多く、随時受診できるようになっている。	○	定期的に受診するだけではなく、特別な症状や専門医受診の必要がある場合には紹介している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は2名おり、健康チェックをしたり日常生活を共にすることで体調の変化等観察している。夜間は法人内の老健の看護師が対応してくれている。	○	毎日のバイタルチェックや入浴時、皮膚の状態や水虫チェック、食事量、活動の変化など観察し、毎日生活記録を記載している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	相談員と連携し、情報交換している。入院時状況報告書を作成し送っている。退院後もホームで安全な生活ができるよう、状況把握をするためにも退院直前に病院に出向き本人と直接会っている。	○	他入居者が皆グループホームで待っている、安心して退院できるよう入居者代表と職員でお見舞いに行き、千羽鶴を作り渡している。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	毎日の申し送りの中で状況を把握し、限界が来る前に家族に頻回に報告している。主治医も交えて家族の意向を伺い、次施設を検討している。	○	職員介護の限界や、他入居者に対する影響を考え、状況に応じてこれからについての相談や方針を主治医、家族と話し合い、決めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	食事ができなくなったり、病気が発生し医療行為が必要となったり、一般浴に入れなくなったりした場合、毎日の申し送りや介護カルテに記載した内容をもとに家族と密に連絡を取り今後を検討している。	○	入居者に対して常に目配りをし、強制せず、家族、主治医には密に報告し情報は申し送りにて周知し、統一したケアができるようにしている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族には、移住先へ見学に行ってもらい、理解してもらっている。サマリーを詳しく作成し、習慣や性格等の情報を提供している。	○	ホームで作成したアルバムやネームプレートなど、思い出の品を持っていってもらい、少しでもやわらげるようにしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		人生の先輩としての心配り、尊敬の念を忘れず、自尊心を傷つけないような声かけ、対応を心がけている。また、記録物は、職員以外の目に触れないように管理している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		入居者のライフスタイルや価値観を尊重し、意見、希望を聞きながら日常生活(ケア、レクなど)を行っている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		一人ひとりの意見や希望を聞いたり、それぞれのペースが尊重されるように見守りながら、日々の生活を支援している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		定期的に理美容が来所し、希望者が希望の髪形にできるように時間を設けている。また、希望があれば、家族の協力のもと通いなれた所へ行くことができる。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている		週1回食事作りを計画し、嗜好品を取り入れたり工夫し、作る事から食べる事、片づけまで『食』に対して楽しさを味わえるようにしている。また、一人ひとりのADLに応じて毎食の食事時にも盛り付け、片付け等関われるようにしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		飲み物、おやつにおいては、お小遣いの範囲内で、または家族の協力の下一人ひとりの好みのものを楽しめるようにしている。タバコにおいては、職員管理の下本人の希望にあわせて状況を見ながら楽しめるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、それぞれの排泄パターンを見極め、失敗をし自尊心を傷つける事がないように、トイレ誘導をしている。夜間はポータブルトイレを使用し、個人に合わせた排泄の援助をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月～土までの日勤帯のうちで、回数や時間は希望に応じ、また、シャワーや入浴のスタイルにおいても希望を取り入れて無理の無いように楽しめるようにしている。入浴剤も取り入れ楽しめるようにしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活スタイルを崩さぬようみ、好みの寝具用品を用意してもらい、安心して休めるよう工夫している。また、状況に応じて昼寝の時間も確保できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	残存能力を発揮できるよう能力を見極め、生活リハビリに参加したり、季節の行事も取り入れ、毎日の散歩や外リハ等を計画し支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の日常生活の自立度に応じ、お金の管理をし自己決定能力を低下させないよう、また、社会参加への意欲を低下させないように使える支援をしている。通常の金銭管理は職員が行っている、		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外リハ、外食、ドライブなど、希望に沿って戸外へ出られるよう、また、家族と一緒に外出できるよう支援している。散歩は日課になっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外リハに家族も同行可能な事を伝えており、月1～2回外リハを計画し実施している。家族の協力が得られれば、外出、外泊も自由である事を伝えている。家族交流会では、イチゴ狩りを行い、家族とともに出かけられる機会を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族それぞれの希望を考慮し、可能な限り自由に行えるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に面会者に対して制限はしておらず、本人、家族の希望があればその都度面会を行い、面会時にはお茶を出したり環境を整えられるよう支援している。家族の希望により、面会されたくない面会者には帰っていただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束者はいないが、一時大腿頸部骨折者に対して、脚力がアップするまで家族の同意を得て行っていた。少しずつ時間を短縮し、外すことができた。	○	身体高速委員会を設置し、膳職員対象に勉強会が開催され、身体拘束廃止について理解できるよう、研修が行われている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	大通りが近くにあるため、認知症の入居者の生命を守るために玄関の施錠はやむを得ず行っているが、施設内の施錠はせず、庭など自由に出入りできるようにしている。玄関施錠に対しては家族に充分説明している。エレベーターの利用も自由にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に目配りをしとくに夜間は夜勤者1人常時配置し、定時巡視以外にも目配りし安全、安眠できるように支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	公共の場の刃物などは、目の届かない場所に保管してあるが、各居室のものについては、それぞれの理解度、危険行動の有無を把握し、職員の判断により個人管理と職員管理と区別している。塩素系のものは、鍵のかかる物入れにしまっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策マニュアルを職員全員が閲覧できるような場所に掲げてあり、定期的に勉強会も実施し、知識を学んでいる。一人ひとりのADLを理解したうえで事故防止に努めている。	○	入居時には、本人の写真を2枚撮影し、行方不明時に備えている。与薬に関しては、名前を声に出して確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会を定期的実施しており、職員全員が統一して知識を持ち対応できるように努力している。また、救急マニュアルを常備しており、常に確認できるようにしている。法人内の老健の看護師が夜間に対応してくれている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回、昼夜、火災、地震を想定し。避難訓練を計画、実施しており、入居者、職員ともに避難方法をイメージできるようにしている。老健の職員の協力のもと行っている訓練もある。緊張感を持たせるために、終了するまで、サイレンは鳴らしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	見学时、入居時、状態が変化したときには、家族に転倒や急変、急死について説明し、主治医からの指示においても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝測定している血圧、体温をもとに、日常生活の流れのなかからも一人ひとりのサインを見逃さず、体調の変化を感じ、速やかに対応できるよう心がけている。毎日の朝、夕の申し送り時に、職員に周知している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当施設で使用している、薬の作用、副作用等の一覧を掲示しており、全職員が理解したうえで服薬管理ができるように努めている。内服薬はすべて、職員管理の下内服確認を密に行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事作りの際には、食物繊維の豊富な食材を取り入れたり、水分が不足しないように心がけたり、散歩や体操等体を動かすよう働きかけている。個々に応じて水分補給ができるよう、コーヒー、紅茶、ポカリなど工夫し提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	専属の歯科衛生士の指導の下、口腔ケア、義歯消毒、義歯手入れを行っている。職員が介入もできるよう指導を受け、一人ひとりの能力に合わせたケア、介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスを考えてたてた献立を提供し、食事量をチェックしている。また、水分摂取においても、食事時以外にも目覚めのお茶、10時、3時とお茶の時間を決め、最低限の飲水量を確保できるようにしている。一人ひとりの状況に合わせた量、盛り付けを心がけ、全員全量摂取できるように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルがあり、感染症に対する予防や対応についていつでも閲覧できるようにしている。また、定期的に勉強会を実施し、全職員が対応できるようにしている。手洗いは励行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理器具は定期的に消毒を行っている。週1回の食事塚利の食材においては、前日にできるだけ新鮮で安全なものを購入し、管理には充分気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植木や季節の花を植え、入居者や家族が親しみを持てるように工夫している。介助バーやスロープもあり、安全に玄関に出入りできるようになっている。階段にも両サイドに介助バーが設置されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや行事を行う事で、季節を感じられるようにしている。また、家庭的な雰囲気を出すため、トイレや浴室などに表示はせず、扉の色を変える等の工夫をしている。	○	共同スペースの大きな窓にはカーテンを引き、窓に映ることによる誤認や昼夜の区別をしっかりとつけている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやこたつなど、入居者が触れ合う空間を提供している。その中で、気のあった入居者同士お話ししたりともに行動できるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活スタイルや環境をできるだけ維持できるよう、使い慣れた家具、好みのものを使用していただくようにしている。特に持ち込みに制限はしておらず、家族、本人と相談した上で決定している。	○	写真や生け花、使い慣れた家具を持ち込み、思い出の品等飾り、楽しめている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝散歩中などに換気を行い、暖房、冷房においても快適な温度を保つようにしている。消臭剤も必要に応じて使用することにより、快適な空間を提供している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーの構造になっており、手すりを所々に設置することでできるだけ自立した生活が送れるようにしている。自分で行える事は自分で行えるように心がけている。	○	脱衣室や台所マットの下には、滑り止めマットが敷いてある。ポータブルトイレの下にも、ずれないように滑り止めマットが敷いてある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレが解らないときはトイレの表示をしたり、居室が解らないときは大きくネームプレートを表示し、混乱しないよう配慮している。徘徊があるときは、職員が寄り添い話を聞き、精神安定を図っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭では毎日洗濯物を干し、夏は花火大会を行うなどしている。季節に応じて食事を楽しんだりする事もある。畑もあり、野菜の栽培もしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		◎	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	◎	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	◎	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	◎	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		◎	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	◎	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		◎	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		◎	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		◎	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		◎	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	◎	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		◎	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	◎	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ストレスの緩和と体力作りを兼ねてほぼ毎日の散歩を行っている。月1回以上の外食や外リハも行っている。